

インターバンクの声（2014年11月25日）

先週20日の木曜日に119円まであと2銭というレベルにまで迫っていたドル円相場は、同日のニューヨーク市場では117円70銭台、翌21日の東京市場の朝方に118円台に戻したものの、その後117円台前半まで急落してからは118円台に戻ろうとする度に上値を抑え込まれていた。そうした状況からやっと解放されたのが昨日の欧州市場序盤。これと言った材料は特になかったはずだが、はや12月が翌週に迫る中で市場参加者の多くが120円突破を確実視しているとの見方が強いためなのか、躊躇なく118円台半ばへと円売りが進んだ。週末に中国人民銀行が利下げしたことや、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁が追加金融緩和の可能性を繰り返し示唆していることがドル買いを進めやすくなっていることも背景にあったようだ。グローバル企業の一部は今月末が年度末ということもあって取引全体が手控えられる可能性もあるようだが、市場はドル買いに一番安心感を持っているようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。